

## 私とハンドボール歴

高校 19 期 (1967 年卒) 玉井 達士

同期の川上から高津高校ハンドについて  
の寄稿依頼があり、暫し昔を懐かしく思い  
出し少しばかり何か書いてみようかと思っ  
た次第です。

私がハンドに接したのは高津中学に入学  
した昭和 36 年の春でした。テレビで偶々関  
西代表と全日本代表との壮行試合を見た後、  
学校の狭いグラウンドで同じ様な事をやっ  
ているのを見て、それが「送球」だと分か  
った時でした。小学校時代は初期肺炎と診  
断され水泳や体育の授業も制限され、いつ  
も病気がちだった私は何気なく見ていた所、  
入部希望と間違われ一緒に遊ぶ事になりま  
した。その時いらっしやったのが高津高校  
でもお世話になった佐藤健二先輩で、同期  
に後にトヨタでサッカーをやってヤンマー  
の釜本をリーグ戦で抑え込んだ安藤などが  
いました。高校進学の際、高津は高校で唯  
一大阪で安保反対デモをした学校なので母  
親が嫌がり私は大手前高校に行く事にして  
いましたが、当時の担任の先生が「高津に  
は浅野 (12 期) がいたからお前は高津へ行  
け」と何とも訳の分らぬ理由で高津へ行く  
事になりました。しかし、肺の一部が機能  
しないし、体力も無い私はハンドには入ら  
ず音楽部に入り音楽室からグラウンドを眺  
めていたら佐藤さんたちのやっているハンド  
を見てしまい、思わずグラウンドに行っ  
てしまいました。そこで川上を始め、屈強  
な人達の中学時代とは違うプレーを見て、  
又岩瀬先輩や林先輩などの諸先輩の御指導  
に私は無理だと思いつつダラダラと夏休み

まで続け、あの！そうです、あの合宿に参  
加したのです！

何故あの様なキツイ合宿だったのか、今  
まで分からなかったのですが、川上が同封  
してくれた田中さや先生の手紙を拝読して  
初めて分かりました。練習は三部構成で朝  
のランニングの後の馬跳びで早くも限界に  
近付いた私は退散しようと思ひ、地面に這  
いつくばりながら林先輩 (13 期) にその事  
を言った所「帰るなら帰れや」と一刀両断  
にされ、どうして良いのか分からなくな  
りました。帰るに帰れなくなり、何と！最後  
まで残っていました。最初は 15 人位いた現  
役が一人二人と消えて、その度に寝泊まり  
していた教室の黒板にお墓の絵が描かれ、  
最終日は現役が 6 人になり最後の練習試合  
もチームが成りたたなくなり、先輩の一人  
に入って頂き先輩チームと試合をしました。  
その一週間は正に地獄絵でした。同期の森  
田は練習合間の休憩時に濡れたタオルを口  
にして泣いていました。川上も最終日に空  
中を手でモガキながら倒れてしまいました。  
何しろ灼熱地獄の中、立っているだけでも  
苦しいのに現役の数より多い先輩方が伝統  
に基づき徹底的に御指導して頂いたのでし  
た。その時は諸先輩の顔が私の眼には鬼の  
様に写りました。合宿中に浅野先輩がいら  
っしゃり私は初めてお目に掛かりましたが、  
諸先輩方の狼狽振りを見まして、何かしら  
妙に安心したのを覚えています。

この様な貴重な経験が私の人生には最大  
の武器になり、何が起こっても誰が来ても

動じなくなり現在に至っております。感謝、感謝の雨霰です。その後縁有って関学のハンドを通じて実業団の湧永薬品やフランス、ドイツのハンドを実見する機会が有りました。関学-早稲田の定期戦（早関戦）も近年

に見ました。時代は変わりハンドも昔から見ると別の競技に見える位スマートになりましたが、基本は泥臭い高津のハンドで、人生も同じ様な気がします。これからの若い人たちにも受け継いで頂ければ幸いです。



中庭



高津宮跡